

音 樂

(一般)

(器樂合奏)

(9) 音楽（一般） (10) 音楽（器楽合奏）

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりする学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 言語能力の育成を図るための工夫 (3) 情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫 (4) 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫 (5) 音楽科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫 (6) 生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫 (7) 他の教科や小学校等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容別配当の分量 (2) 教材・資料等の分量 (3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等
3 その他	教材・資料等における配慮や特色

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
17 教出	<p>●着眼点(1)について 自分の考えなどをまとめ、「話し合おう」によって協働的な展開ができるよう工夫されている。 〔例〕「春」第1楽章（1年 P39）</p> <p>●着眼点(2)について 聴き取ったり気づいたりしたことを記録し、対話的な活動につなげることによって、音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽に対する価値を考え、言語活動を充実させるよう工夫されている。 〔例〕野ばら（1年 P62）</p> <p>●着眼点(3)について 生徒一人一人の学習に対応できるよう必要な情報を「学びリンク」で的確に示すよう工夫されている。 〔例〕ポレロ（2・3年上 P30）</p> <p>●着眼点(4)について 歌唱等の各教材は「曲想と音楽の構造との関わり」が意識され、3年間の系統性を意識した配列となっていて、生徒や学校の実態に応じて選択できよう工夫されている。 〔例〕各学年（P4～5）</p>	<p>●着眼点(5)について 音楽の歴史的・文化的な背景、生活や社会における音楽の働きや役割について、音楽活動をとおして理解できるよう工夫されている。 〔例〕私たちのくらしと音楽 ～音楽著作権について～ （2・3年上 P70～71）</p> <p>●着眼点(6)について 音楽に関する知識や技能を生かしながら、自ら歌唱表現を工夫することや他者と交流することを通して小集団や学級としての表現をつくることができるよう工夫されている。 〔例〕時を越えて （2・3年下 P20～21）</p> <p>●着眼点(7)について 音楽の学習と、他の教科の学習との横断的な学習を実施できるよう工夫されている。 〔例〕歌舞伎「勸進帳」 （2・3年下 P38～39）</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
27 教芸	<p>●着眼点(1)について 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために参考となる学びの手順・工夫の視点を具体的に示すよう工夫されている。 〔例〕 深めよう！音楽 曲の構成 (1年 P19)</p> <p>●着眼点(2)について 聴き取ったり感じ取ったりしたことをもとに思考及び判断し、理解したことを言葉や音楽で表現できるよう工夫されている。 〔例〕 My Melody (1年 P21～23)</p> <p>●着眼点(3)について 二次元コードにより、指導に資するコンテンツを閲覧できるよう工夫されている。 〔例〕 荒城の月 (2・3年上 P25)</p> <p>●着眼点(4)について 「学びの地図」により、1年間の学習の見通しをもつことができるよう工夫されている。 〔例〕 各学年 (P8～9)</p>	<p>●着眼点(5)について 生活や社会と音楽とのつながりを実感できるよう工夫されている。 〔例〕 生活や社会の中の音楽 (2・3年下 P68～69)</p> <p>●着眼点(6)について 歌唱、創作、鑑賞の3分野について、2領域(表現、鑑賞)の視点も踏まえ、1年間の学びを俯瞰できるよう工夫されている。 〔例〕 各学年 (P8～9)</p> <p>●着眼点(7)について 歌唱教材の学習において、英語で歌う教材を取り上げ、英語の学習と関連づけられるよう工夫されている。 〔例〕 Let It Be (2・3年下 P28～29)</p>

2 使用上の便宜

項目 発行者の 番号・略称	総 ページ	(1)内容別配当の分量						(2)教材・資料等の分量										
		A表現			B鑑賞	共通 事項	資 歌 料 数 に 関 する 教 材 ・	資 器 料 数 に 関 する 教 材 ・	資 創 料 数 に 関 する 教 材 ・	鑑 賞 料 数 に 関 する 教 材 ・	る （ 共 通 事 項 ） に 関 する 教 材 ・	材 ・ 学 体 的 ・ 資 料 数 に 関 する 教 材 ・	す 伝 統 文 化 の 尊 重 数 に 関 する 教 材 ・	材 ・ 国 際 理 解 に 関 する 教 材 ・	関 社 会 と の 関 連 性 に 関 する 教 材 ・	そ の 他	等 三 重 県 に 関 する 記 述	
		歌 唱	器 楽	創 作	鑑 賞													
17 教出	1年	84	44	3	4	26	7	44	8	6	26	79	17	25	11	15	7	○
	2・3 年上	84	36	5	4	30	9	36	12	4	28	79	19	31	7	24	7	—
	2・3 年下	84	34	3	4	32	11	34	7	4	34	79	20	23	11	22	7	—
27 教芸	1年	99	51	0	7	30	11	52	8	7	30	94	20	14	4	11	3	○
	2・3 年上	99	47	0	6	32	14	47	6	6	32	94	14	14	5	16	5	○
	2・3 年下	99	43	0	4	36	16	43	8	4	36	94	12	20	16	25	2	—

(3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等

17 教出	<ul style="list-style-type: none"> ・A4変型判。環境にやさしい再生紙と植物油インキを使用している。 ・配色（カラーユニバーサルデザイン）や文字（ユニバーサルデザインフォント）などの工夫により、学びやすい紙面づくりに配慮している。 ・関連動画、音源、資料など、学びを支えるWEBリンクを示している。 ・学びのねらい、学習する曲や活動、比べる曲を示す「学びのユニット」により、教材の配列の工夫や関連を図っている。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向け、進んで学び合う活動が展開できるよう工夫されている。
27 教芸	<ul style="list-style-type: none"> ・A4変型判。再生紙、植物油インキを使用し、環境に配慮している。 ・学年によって表紙のベースの色が異なり、わかりやすいよう工夫されている。 ・色覚特性に配慮した配色が使われている。 ・安全な糸中綴じ方式による製本となっている。 ・巻末に合唱曲がまとめてたくさん掲載されており、授業や合唱コンクール等で活用しやすいよう工夫されている。

3 その他

	教材・資料等における配慮や特色
17 教出	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国や郷土の音楽文化の理解を深める教材を、カリキュラム・マネジメントを意識して掲載されている。 ・「作者の思いにふれる」、「民謡に用いられる楽器」、「日本とアジアのこと」等により、音楽に親しみ尊重する態度の育成をめざしている。
27 教芸	<ul style="list-style-type: none"> ・国歌のページに、国際的儀礼としての意義が書かれており、オリンピック等と関連づけて生徒に親しみやすく感じられるよう工夫されている。 ・人気の高い有名な定番の合唱曲だけでなく、新しい合唱曲もたくさん掲載されている。

音楽（器楽合奏）

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
17 教出	<p>●着眼点(1)について 前半で基本的な知識や技能をまとめた演奏の仕方を身につけ、後半で習得した知識や技能を活用して学びを深められるよう工夫されている。 〔例〕 リコーダー (P4～11)</p> <p>●着眼点(2)について 音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽に対する価値を考え、言語活動を充実させるよう工夫されている。 〔例〕 何が同じで、何が違う？ PART-1 (P26)</p> <p>●着眼点(3)について 生徒一人一人の学習に対応できるよう必要な情報を「学びリンク」で的確に示すよう工夫されている。 〔例〕 リズム de ゴー (P6)</p> <p>●着眼点(4)について 「学びのねらい」をスタート、「まとめの曲」をゴールと設定し、学習を見通せるよう工夫されている。 〔例〕 タンギング (P6～7)</p>	<p>●着眼点(5)について 和楽器の音色や響き、奏法や楽曲の特徴などの学習において、暮らしとの関わりを感じられるよう工夫されている。 〔例〕 太鼓 (P54)</p> <p>●着眼点(6)について 音楽に関する知識や技能を生かしながら、自ら演奏表現を工夫することや他者と交流することを通して小集団や学級としての表現をつくることのできるよう工夫されている。 〔例〕 もみじ (P60)</p> <p>●着眼点(7)について 音楽の学習と、他の教科の学習との横断的な学習を実施できるよう工夫されている。 〔例〕 何が同じで、何が違う？ PART-2 (P52)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
27 教芸	<p>●着眼点(1)について 吹き出し等で生徒の思考の例を明示し、生徒の「思いや意図」を生かすことができるよう工夫されている。 〔例〕 深めよう！音楽 パートの役割 (P13)</p> <p>●着眼点(2)について 聴き取ったり感じ取ったりしたことをもとに思考及び判断し、理解したことを言葉や音楽で表現できるよう工夫されている。 〔例〕 深めよう！音楽 曲の構成 (P15)</p> <p>●着眼点(3)について 二次元コードにより、学習をサポートする参考資料を閲覧できるよう工夫されている。 〔例〕 ギター (P33)</p> <p>●着眼点(4)について 「何を学ぶか」を明示し、生徒がそれを意識することで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 〔例〕 深めよう！音楽 アーティキュレーションの工夫 (P11)</p>	<p>●着眼点(5)について 生活や社会と音楽とのつながりを実感できるよう工夫されている。 〔例〕 楽しもう！和楽器の音楽 (P107)</p> <p>●着眼点(6)について 器楽と創作の2分野について、1年間の学びを俯瞰できるよう工夫されている。 〔例〕 「中学生の器楽」の学習内容 (P8～9)</p> <p>●着眼点(7)について 道徳教育や人権教育の観点に立ち、生徒たちが自分自身のよさや可能性を認識して個性を生かしながら、多様な他者を価値ある存在として尊重し、協働していくことができるよう工夫されている。 〔例〕 姿勢と構え方 (P42)</p>

2 使用上の便宜

項目 発行者の 番号・略称	総 ページ	(1)内容別配当の分量					(2)教材・資料等の分量											
		A表現			B鑑賞	共 通 事 項	資 料 数 に 関 する 教 材 ・	資 料 数 に 関 する 教 材 ・	資 料 数 に 関 する 教 材 ・	鑑 賞 に 関 する 教 材 ・	資 料 数 に 関 する 教 材 ・	主 体 的 に 関 する 教 材 ・	対 話 的 に 関 する 教 材 ・	文 化 的 に 関 する 教 材 ・	国 際 的 に 関 する 教 材 ・	社 会 的 に 関 する 教 材 ・	そ の 他	三 重 県 に 関 する 記 述
		歌 唱	器 楽	創 作	鑑 賞													
17 教出	99	0	91	1	4	3	14	92	9	6	96	7	53	4	5	3	—	
27 教芸	107	0	83	1	9	14	14	83	1	9	104	3	37	5	3	1	—	

(3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等

17 教出	<ul style="list-style-type: none"> ・ A4変型判。環境にやさしい再生紙と植物油インキを使用している。 ・ 配色（カラーユニバーサルデザイン）や文字（ユニバーサルデザインフォント）などの工夫により、学びやすい紙面づくりに配慮している。 ・ 関連動画、音源、資料など、学びを支えるWEBリンクを示している。 ・ 見開きごとに学びのねらいを設定し、明示してある。 ・ 楽器名、楽器概説、中学生へのメッセージ、学習事項等、必要な情報を見やすく掲載している。
27 教芸	<ul style="list-style-type: none"> ・ A4変型判。再生紙、植物油インキを使用し、環境に配慮している。 ・ 色覚特性に配慮した配色がされている。 ・ 安全な糸中綴じ方式による製本となっている。 ・ インクルーシブ教育の実現をめざし、特別支援教育の観点から、情報の配置に配慮している。 ・ 学習をサポートする参考資料を閲覧できる二次元コードを紙面上に示している。

3 その他

	教材・資料等における配慮や特色
17 教出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「赤とんぼ」、「シューベルトの子守歌」、「冬（ヴィヴァルディ）」、「ブルタバ（モルダウ）」等、鑑賞教材や歌唱共通教材として親しまれている教材が採り入れられている。 ・ 吹く楽器と弾く楽器の区切りに「何が同じで、何が違う？」を掲載し、各楽器を比較しながら主体的・協働的に特徴をまとめられるよう工夫されている。
27 教芸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「笑点のテーマ」、「魔女の宅急便」、「美女と野獣」、「千の風になって」等、生徒の興味を引きそうな身近な楽曲が採り入れられている。 ・ 箏曲や篠笛においても「少年時代」、「もののけ姫」といった曲が掲載されており、生徒が身近に感じやすいよう工夫されている。